**ミニトンとは？**

 １９６０年代後半にヨットレースが世界中で盛んになってきた頃、大小さまざまな艇種が参加し着順勝負で勝敗を決めていましたが、大きさが違うヨット同士では不公平さがありました。

そこで艇の全長でクラス分けを行うIOR（International Offshore Rule）というレーティングが１９６９年に登場し、クラスは７つに分けられ、大きなサイズから、マキシ、ツートン、ワントン、スリークォータートン（３／４）、ハーフトン（１／２）、クオータートン（１／４）、そして一番小さい7番目のクラスがミニトン（１／８）で全長２２フィート位でした。

IORは１９７０年代から１９９０年代初頭まで各レースで採用されていましたが、全長の長さだけのレーティングでは、素材やセール面積などを高性能にしたヨットが建造され、やはり不公平が起きたため、その後は、各艇の詳細なデータを集計しハンディキャップを決め修正時間で勝敗を決めるIMS、ORC、IRCと移行し、IORレーティングによるレースは無くなりました。

以前は、ワントン（約４０フィート）、ハーフトン（約３０フート）などと言われたレースもありましたが、現在では、ビックボート、ミドルボートなどのレース名称となった中、ミニトンは、IORの名残として現在でもクラス名称をレースタイトルとして使用しています。

但し、レースの勝敗はIRCのハンディキャップを採用しており、TCC：０.９００以下、全長２６ft以下の艇種がミニトンレースの参加資格となっています。

全国で活躍しているミニトン艇には、Y２１、Y２３、Ｙ２４、Y２５、ＬＥＰ２１、ＹＯＫ２２、そしてミニトンレース用として建造されたＴＡＫ１/８（ 高井２２）などがあります。

１９８０年代後半から１９９０年代に建造された艇が多く、艇齢は３０年前後と古いですが、オーナーの皆さんは日頃の手入れが良いので、まだまだ現役バリバリでレースに参加しています。

国内でのミニトンレースの歴史は古く、第1回ミニトン全日本選手権が１９７９年に日産マリーナ東海で開催され、その後、各地で大会が開催され参加艇が多い時は６０艇ほどあったようです。

現在もミニトン全日本選手権は続けられており、日本ミニトン協会の支部がある、関東（東京湾・江の島）、関西（琵琶湖）、九州（鹿児島）と全国で行われ、ここ数年は関東⇒関西⇒九州⇒関東以下同順で大会が行われています。

２０１９年の秋頃に九州鹿児島の錦江湾にて第３９回ミニトン全日本選手権が予定されており、２０２０年秋頃には、関東の東京湾浦安沖で第４０回目の大会を予定しています。

ミニトン全日本選手権以外にも、関西選手権、九州選手権が春頃に開催されています。

ミニトンクラスは、ビックボート、ミドルボートに比べると、中古艇の価格および係留費が安く済むことや、クルーも４～5人で手軽に出来ること、そして、各クラブレースや大会などではミニトンクラスが良い成績を修めており、小さくても速いことなどが魅力だと思います。​

近年の小型艇には、メルジェス２０、２４やＪ７０などの高性能軽量ボートがありますが、価格は中古艇でもそれなりにしているようですしワンデザインですので、艇に対してちょっとした工夫の艤装ができないのが少し物足りない感じもします。その点ミニトンは艤装に対して使いやすさなど工夫する楽しみがあります。

ヨットライフを楽しんでいる方には、最初は小型艇から初めてそしてサイズアップした艇に買い替えて行った方が多いと思いますが、その後、大きなヨットはクルー不足や維持経費など悩みを抱えてしまっている方もいるのではないでしょうか。

そのような方には、ヨットを始めていた原点ともいえる、ミニトンクラスをもう一度始めてみるのは如何でしょうか！

もちろん、これからヨットを始める方にもお勧めです！